

公 開
資 料 2

第 3 5 8 回 幹 事 会
諸 報 告 事 項

令和5年11月27日

日 本 学 術 会 議

Ⅱ 諸 報 告 事 項

ページ

第 1	前回幹事会以降の経過報告	
1	会長メッセージ	3
2	会長等出席行事	4
3	委員の辞任	5
第 2	各部・各委員会等報告	
1	部会の開催とその議題	5
2	幹事会附置委員会の開催とその議題	6
3	機能別委員会の開催とその議題	6
4	分野別委員会の開催とその議題	6
5	課題別委員会の開催とその議題	9
6	若手アカデミーの開催とその議題	9
7	連絡会議の開催とその議題	9
8	サイエンスカフェの開催	9
9	記録	9
10	総合科学技術・イノベーション会議報告	9
11	慶弔	9
12	意思の表出に係る報告	10
13	意思の表出（英訳版）に係る報告	11

第1. 前回幹事会以降の経過報告

1 会長メッセージ

日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会の第4回会合の開催について

令和5年11月10日
日本学術会議会長
光石 衛

過日11月2日(木)8:00~10:00、日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会の第4回会合が開催されました。今回から第26期の会長として、第25期の梶田会長を引き継ぎ、有識者懇談会に出席してまいります。初めての出席であり、議事に先立ち、懇談会の皆さまにご挨拶とともに、会長としての抱負を4点ほど申し述べました。

第1は、従来の各学術分野ベースのボトムアップの助言機能に加え、分野横断的かつ課題解決型の助言機能の強化とともに、タイムリー、スピーディな意思の表出に向けての助言機能の強化です。第2は、海外の科学者からなる外国人アドバイザリーボード(仮称)の設立です。日本学術会議の活動や世界の学術の課題等について意見交換を行い、活動や運営に活かし、日本の学術のレジリエンスの向上を図ります。第3は、会員、連携会員を媒介とした産業界をはじめとする社会の多様な団体とのコミュニケーションの促進です。社会課題はもちろんのこと、企業の研究力の向上についても議論したいと考えています。第4は、市民とのコミュニケーションの促進と地方の活性化です。そして、こうした活動強化には、予算の手当てが不可欠であることも強く申し上げました。

さて、第4回の懇談会では、まず、内閣府から、これまで懇談会で出された主な意見と、日本学術会議からの説明や回答を取りまとめた資料が報告されました。

続いて日比谷潤子副会長が、第26-27期会員の選考について報告を行いました。とりわけ、コ・オペレーション方式について丁寧な説明を加え、会員選考に関する説明責任の強化に取り組み、会員のジェンダー・バランス、地域分布、年齢構成に関して、望ましい結果が得られたことを報告しました。懇談会の委員の方には、学術会議の選考やその考え方についてさらに明確にご理解いただけたのではないかと考えております。

有識者委員からは、第3回までの会合において、委員が発言する機会が限られており、もっと委員間の議論を重ねたいという要望が出され、今回はこれまで以上に委員から多くの意見が出され、活発な議論が交わされました。そこでは、日本学術会議の組織体制の議論の前に、日本学術会議の機能や役割について十分な議論がなされる必要がある、会員選考については社会に対する説明責任は必要であるが、独立性の担保がなされることが重要である、国からの十分な財政的な支援が必要であるなど、概ね学術会議が目指してきた方向での議論が進みました。

議論の最後に、内閣府から、日本学術会議を法人化する場合の案についても議論してほしいという提案が出されました。これに対して、私からは、法人化ありきの議論はすべきでなく、引き続き国に存置する案も含めて、期待される役割・機能をより良く発揮できるようなあり方はいかなるものかについて検討していただきたいと、これまで繰り返し表明

してきた要望をあらためて発言しました。

法人化案が内閣府から示された場合には、日本学術会議としてどのように対応すべきかが、喫緊の課題として立ち上がってきました。懇談会での議論を共有し、対応の方向性等について会員間で議論する機会を持つことが必要であると考えています。また、事態の進展によっては、臨時総会を開催し、日本学術会議としての対応について議論する可能性も検討しています。

このような事態のなか、これまで以上に日本学術会議を支えていただきますよう、心よりお願い申し上げます。

*内閣府・有識者懇談会HP

<https://www.cao.go.jp/scjarikata/kondankai.html>

*第4回有識者懇談会資料

<https://www.cao.go.jp/scjarikata/kondankai/20231102shiryo.html>

*第4回有識者懇談会議事録

<https://www.cao.go.jp/scjarikata/20231102gijiroku.pdf>

*第3回有識者懇談会議事録

<https://www.cao.go.jp/scjarikata/20230925gijiroku.pdf>

*第2回有識者懇談会議事録

<https://www.cao.go.jp/scjarikata/20230906gijiroku.pdf>

*第1回有識者懇談会議事録

<https://www.cao.go.jp/scjarikata/20230829gijiroku.pdf>

*日本学術会議HP「日本学術会議の在り方について」特設ページ

<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/division-20.html>

2 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
11月2日(木)	第4回日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会	光石会長 三枝副会長 磯副会長 日比谷副会長
11月6日(月)	IFTOMM World Congress 2023 開会式	光石会長

11月9日(木)	第5回日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会	光石会長 三枝副会長 磯副会長 日比谷副会長
11月11日(土)	日本学術会議の在り方に関する検討状況等についての会員説明会(オンライン)	光石会長 三枝副会長 磯副会長 日比谷副会長
11月14日(火)	英国アカデミーへの就任挨拶(オンライン)	光石会長 日比谷副会長
11月17日(金)	第26期日本学術会議連携会員説明会(オンライン)	光石会長 三枝副会長 磯副会長
11月18日(土)	北海道地区会議学術講演会「人間と野生生物の共生のためにー北海道の最新研究と実践」(オンライン)	三枝副会長
11月20日(月)	第6回日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会	光石会長
11月21日(火)	京都大学基礎物理学研究所創立70周年記念行事挨拶(オンライン)	光石会長
11月25日(土)	中国・四国地区会議学術講演会「地方大学の持続可能な開発目標[SDGs]へのアプローチ」(オンライン)	日比谷副会長

注) 部会、委員会等を除く。

3 委員の辞任

なし

第2. 各部・各委員会等報告

1 部会の開催とその議題

- (1) 第三部拡大役員会(第1回)(10月27日)
- ① 第三部会(第26期・第1回)の議事要旨の確認
 - ② 第三部各分野別委員会の確認
 - ③ 第三部会員に対する専門などの調査
 - ④ 令和6年度第三部夏季部会について
 - ⑤ 理学・工学系学協会連絡協議会について
 - ⑥ 令和6年度第三部予算執行方針について
 - ⑦ その他

(2) **第二部役員会** (第2回) (11月27日)

- ① 予算の執行状況
- ② 分科会の立ち上げ申請状況
- ③ 部附置分科会の設置について
- ④ その他

(3) **第三部拡大役員会** (第2回) (11月27日)

- ① 今期の活動方針と現状について
- ② 第三部予算執行方針について
- ③ 第三部会員に対する専門などの調査
- ④ 第三部附置分科会の設置について
- ⑤ 令和6年度 第三部夏季部会について
- ⑥ 理学・工学系学協会連絡協議会について
- ⑦ その他

2 幹事会附置委員会の開催とその議題

(1) **広報委員会** (第1回) (11月15日)

- ① 役員の選出について
- ② 広報委員会の今後の運営について
- ③ 分科会の設置について
- ④ その他

3 機能別委員会の開催とその議題

(1) **科学者委員会** (第1回) (11月13日)

- ① 役員の選出について
- ② 地区会議関係の審議について
- ③ 分科会の設置等について
- ④ その他

(2) **国際委員会** (第1回) (11月13日)

- ① 役員の指名と同意
- ② 第25期国際委員会からの申し送りについて
- ③ 国際委員会運営要綱の一部改正について
- ④ その他

4 分野別委員会の開催とその議題

第一部担当

(1) **社会学委員会** (第2回) (10月27日)

- ① 分科会の設置と運営について
- ② その他

(2) 史学委員会 (第2回) (11月3日)

① 第26期の分科会編成について

説明者：中村 征樹 (第一部会員、大阪大学全学教育推進機構教授)
長 志珠絵 (連携会員、神戸大学大学院国際文化学研究科教授)
川島 真 (連携会員、東京大学大学院総合文化研究科教授)
栗田 禎子 (連携会員、千葉大学大学院人文科学研究院教授)
福永 伸哉 (連携会員、大阪大学大学院人文学研究科教授)
若尾 政希 (連携会員、一橋大学大学院社会学研究科教授)

② その他

(3) 地域研究委員会 (第2回) (11月6日)

① 分科会の設置について

② ガザ地区の事態への対応について

(4) 社会学委員会 (第3回) (11月14日)

① 分科会の設置と運営について

② その他

(5) 哲学委員会 (第2回) (11月25日)

① 今後の幹事の追加について

② 分科会の提案申請について

説明者：奥田 太郎 (連携会員、南山大学社会倫理研究所教授)

③ 社会学委員会からの合同分科会の提案について

④ その他

(6) 史学委員会 IUHPST 分科会 (第1回) (11月26日)

① 役員の選出

② 委員の追加

③ 連携会員 (特任) の推薦

④ DHST 臨時総会への対応

説明者：中村 征樹 (第一部会員、大阪大学全学教育推進機構教授)

杉本 舞 (連携会員、関西大学社会学部社会学科准教授)

橋本 毅彦 (連携会員、東京大学名誉教授)

参考人：岡田 光弘 (慶応義塾大学名誉教授)

⑤ その他

第二部担当

なし

第三部担当

(1) 地球惑星科学委員会 SCOR 分科会 (第1回) (10月30日)

- ① 第26期 SCOR 分科会の委員長、副委員長、幹事について
- ② 第26期 SCOR 分科会の委員の追加並びに特任連携会員について
- ③ SCOR 分科会傘下の小委員会について
- ④ 議事要旨の提出に関する委員長一任について
- ⑤ 分科会委員間のメールアドレス共有について
- ⑥ その他

(2) 地球惑星科学委員会 IUGS 分科会 (第1回) (10月30日)

- ① 委員長、副委員長、幹事の決定
- ② 第26期の活動方針
- ③ 特任連携会員の決定
- ④ 小委員会の認定に関して
- ⑤ 新しい連携会員の推薦
- ⑥ その他

(3) 情報学委員会 国際サイエンスデータ分科会 (第1回) (11月2日)

- ① 役員の選出
- ② 構成員の追加
- ③ 今後の進め方
- ④ 議事要旨の委員長一任
- ⑤ その他

(4) 地球惑星科学委員会 IUGG 分科会 (第1回) (11月14日)

- ① 役員の選出
- ② 特任連携会員の申請について
- ③ 小委員会の設置について
- ④ 議事要旨の提出に関する委員長一任について
- ⑤ 分科会委員間のメールアドレス共有について
- ⑥ その他

(5) 地球惑星科学委員会 IGU 分科会 (第2回) (11月16日)

- ① 役員の変更について
- ② 小委員会の設置について
- ③ ICA 小委員会からの報告
- ④ IGU などの動向について
- ⑤ その他

(6) 地球惑星科学委員会 (第3回) (11月24日)

- ① 分科会 (地球・惑星圏分科会、地球・人間圏分科会、地球惑星科学社会貢献分科会、

地球惑星科学次世代育成分科会)の委員について

② その他

5 課題別委員会の開催とその議題

なし

6 若手アカデミーの開催とその議題

なし

7 連絡会議の開催とその議題

なし

8 サイエンスカフェの開催

なし

9 記録

なし

10 総合科学技術・イノベーション会議報告

1. 本会議

なし

2. 専門調査会

なし

3. 有識者議員会合

11月2日(木)

11月16日(木)

11 慶弔

○慶事

・令和5年度文化勲章受章者 令和5年11月3日発令

岩井 克人(元会員(第20-21期)、元連携会員(第22-23期))

谷口 維紹(元会員(第20-21期)、元連携会員(第22-23期))

玉尾 皓平(元会員(第20-21期)、元連携会員(第22-23期))

・ 令和5年秋の叙勲受章者 令和5年11月3日発令

【瑞宝重光章】

内田 伸子（元会員（第20-21期）、元連携会員（第22-25期））
大島 伸一（元会員（第22-23期）、元連携会員（第20-21期））
佐々木 卓治（元連携会員（第20-23期））
篠崎 一雄（元連携会員（第20-23期））

【瑞宝中綬章】

稲葉 カヨ（元連携会員（第20期、第23-24期））
猪口 孝（元会員（第20-21期）、元連携会員（第22-23期））
今井 浩三（元会員（第20-21期）、元連携会員（第22-23期））
大淵 憲一（元連携会員（第20-22期））
嘉門 雅史（元会員（第21-22期）、元連携会員（第20期、第23-24期））
宜保 清一（元連携会員（第20-23期））
杉原 隆（元連携会員（第20-21期））
田栗 正章（元連携会員（第23-24期））
棚瀬 孝雄（元連携会員（第20-21期））
谷口 旭（元連携会員（第20-21期））
中島 映至（元会員（第21-22期）、連携会員（第20期、第23-26期））
西村 いくこ（元会員（第23-24期）、連携会員（第20-22期、第25-26期））
満屋 裕明（元会員（第21-22期）、元連携会員（第20期、第23-24期））
宮田 隆司（元連携会員（第20-23期））
虫明 功臣（元連携会員（第20-21期））
柳原 正治（元連携会員（第20-24期））

・ 令和5年秋の褒章受章者 令和5年11月3日発令

【紫綬褒章】

柚崎 通介（会員（第26-27期）、元連携会員（第24-25期））
渡部 泰明（元会員（第24-25期）、元連携会員（第23期））
榊原 均（元連携会員（第24-25期））
兒玉 了祐（連携会員（第25-26期））

○弔事

・ ご逝去

中山 俊憲 令和5年11月2日 享年64歳
現連携会員（第23-24期、第25-26期）

12 意思の表出に係る報告

なし

1.3 意思の表出（英訳版）に係る報告

なし

1.4 インパクト・レポート

- ・提言「被服学分野の資格教育の現状と展望」
日本学術会議健康・生活科学委員会家政学分科会（令和2年9月7日公表）
- ・第1回インパクト・レポートは令和3年9月30日第316回幹事会で報告済

第2回 インパクト・レポート

- 1 フォローアップ（提言を浸透させるための提言者側のシンポジウムや出版等の活動）
 - ・本分科会主催の公開シンポジウムを開催（令和元年10月27日）。「生活によりそう家政学—衣生活を支える被服学における資格士教育の位置づけ—」
 - ・生活科学系コンソーシアム（日本学術会議健康・生活科学委員会生活科学(家政学)分科会）と、(一社)日本家政学会をはじめとする関連学協会(19団体)との連携を目的として平成19年に設立)主催の第9回シンポジウム（令和2年12月26日、オンライン）を開催。「前期（第24期）日本学術会議から発出した生活科学関連の3つの提言について」を実施。
 - ・衣料管理士養成に関わる関係機関に提言を送付して周知を図った。送付先は、文部科学省、経済産業省、消費者庁、内閣府など関係各府省及び衣料管理士資格を認定する（一社）日本衣料管理協会と1級衣料管理士資格養成を行う4年制の全大学13校。

- 2 社会に対するインパクト
 - (1) 政策への反映
 - ・無

 - (2) 学協会・研究教育機関・市民社会等の反応
 - (a) 学協会
 - ・提言に掲げた課題が衣料管理士（TA）資格の認定機関である（一社）日本衣料管理協会においても検討され、協会のHPの一部に反映された。
 - ・2022年度から1級衣料管理士の上位資格として、「衣料管理士専修」が新設され、認定を行う（一社）日本衣料管理協会から衣料管理士養成校に通知された。東京家政大学、大妻女子大学、椙山女学園大学等で対応が始まっている。

 - (b) 研究教育機関
 - ・衣料管理士資格に関係する（一社）日本衣料管理協会及び1級衣料管理士を養成する4年制の全大学に提言を送付して意見を求めた。資格認定機関からは、より良い

資格とするために養成校のアンケート結果を活用したいこと、多くの養成校からは、提言の内容に賛同するという声を得ることができた。

(c) 市民

- ・無

3 メディア

- ・無

4 意思の表出内容において、他の異なる意見との関係性等に変化があれば記載してください。

- ・無

5 考察と自己点検 (a-c から一つ選択し、説明する)

(b) ほぼ予想通りのインパクトが得られた

提言作成に際し、衣料管理士を養成する4年制の全大学の協力を得て郵送方式によるアンケート調査を行い、課題を抽出した。次に、シンポジウムを開催し、課題解決のための対策を検討した。同時に、資格認定機関や経済産業省と消費者庁からも意見を聴取した。このような経過を踏まえて表出した提言により、繊維製品が関係する地球環境の保全や生活の安心・安全・快適化のためにも衣料管理士資格者の役割は今後益々有用であることが確認された。さらに、衣料管理士の資格教育の基盤である被服学分野の人材育成が縮小しつつあるという現状打開のためにも、資格認定機関においては、資格の認知度を高めること、大学においては、被服科学分野の人材育成の強化を積極的に進めることが喫緊の課題として共有された。繊維製品の品質管理に関する資格養成が始まってから50年が経過する現在、資格認定機関と養成大学は、関係する企業の協力を得ながら、生活者視点による地球環境の保全や生活の安心・安全・快適化を見据えた更なる取り組みが急務である。

インパクト・レポート作成責任者
健康・生活科学委員会家政学分科会第25期委員長
杉山久仁子
提出日 令和5年10月1日